

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

知立駅周辺地区

平成29年3月

愛知県知立市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価					フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み					理由	改善策の方向性	
指標1	地区内の老朽木造建築棟数率	%	31	25	21	確定 見込み	— ○	○	あり なし	21	H28年4月	●	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		区画整理事業や道路事業などによる建物移転・建替えが順調に進捗したことにより、老朽木造建築棟数が減少した。
指標2	都市公園のユニバーサルデザイン化率	%	19	28	28	確定 見込み	— ○	○	あり なし	28	H28年4月	●	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		ユニバーサルデザインに配慮したトイレの設置、園路の整備を推進したことにより、多様な方々の交流の場となる公園を創出できた。
指標3	交通事故発生件数	件/年	2,322	2,190	2,470	確定 見込み	— ○	×	あり なし	2,754	H28年4月	×	知立市内全域の人身事故件数は近年の傾向どおりであったが、物損事故が近年の傾向よりも増加したため。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	物損事故件数が大きく上昇したため、今後は知立駅周辺土地区画整理事業及び都市計画道路事業により基盤整備を進めると共に、ミニバスの利便性を向上させ公共交通への利用促進を行うことで安全性を高めていく。
指標4						確定 見込み			あり なし		H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	対象地区内における小学校区の交通事故(人身)発生件数	件/年	310		282	確定 見込み	○		287	H28年4月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		道路改良事業や幹線市道路面緊急改良事業により歩道設置や道路拡幅等を行ったことで、道路の安全性は部分的に高まった。
その他の数値指標2						確定 見込み				H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3						確定 見込み				H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4ー③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5ー③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	知立駅周辺の一体的な事業の推進	知立駅周辺地区の土地区画整理事業	市の玄関口にふさわしい活力や賑わいの創出に 繋がる魅力的な中心拠点の形成向け進んでい る。	知立駅周辺地区の都市基盤の整備を進めていくことが必要。
	歩行者が安全に通行できる交通環境の形成	歩行者空間の改良(南陽通)	安全な歩行空間を確保でき、道路交通の安全性 が向上した。	安全な歩行空間を確保することで、回遊性を向上させることが 必要。
	地域コミュニティによる活動の維持・促進	新規公園愛護会の発足(知立駅前広場、本町公園)	定期的な清掃等及び公園の見回りを行うことによ り、安全性の向上及び交流の場となった。	今後も継続的に公園愛護会の維持促進および公園施設の整備 改良を行い、安全性の向上や地域の交流の場となるようにして いくことが必要
改善策 ・まちづくりの目標を達成するた めの改善策 ・残された課題・新たな課題への 対応策 ・その他 必要な改善策	歩行者が安全に通行できる交通環境の形成	知立駅周辺地区の土地区画整理事業	歩行者の回遊性向上につながった。	今後も継続して土地区画整理事業及び都市計画道路事業の推 進が必要。
	自動車から公共交通への利用促進	知立市ホームページ上でのミニバス時刻表検索システム導入	バスの乗り継ぎや待ち時間及び所要時間が分か るようになり公共交通を利用する機会が促進し た。	公共交通計画を策定し、公共交通のさらなる利便性の向上が必 要。

事後評価シート 添付様式5ー③から転記

様式4ー④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
知立駅周辺の賑わいの向上	知立駅駅前広場や公園等のデザインを検討する知立駅周辺まちなみデザインプロ ジェクト会議を発足し、誰もが利用しやすい公共施設を構築する。	平成28年度～平成29年 度	知立駅周辺の都市基盤整備と連携し協議を推進していくことが必要。

都市再生整備計画(第5回変更)

ちりゅうえきしゅうへんちく
知立駅周辺地区

あいち ちりゅうし
愛知県 知立市

平成27年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	ちりゅう 知立市	地区名	ちりゅうえきしゅうへん 知立駅周辺地区	面積	914.7 ha				
計画期間	平成	23 年度	～	平成	27 年度	交付期間	平成	23 年度	～	平成	27 年度

目標

大目標

：活力あふれる交流と賑わいのあるまちづくり

目標①

：土地区画整理事業など、中心市街地の一体的な整備を推進することにより、既存の密集市街地の防災機能の向上や生活環境の改善を図り、まちの賑わいを創造する。

目標②

：人びとの交流の場となる公園等の公共施設の整備・改良を推進するとともに、各施設への交通機能向上を図ることにより、多世代が交流できる活力あるまちづくりを実現する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

□知立駅周辺の中心市街地は、市民の居住の場、消費の場及び交流の場等の役割を果たし、まちの伝統や文化の情報発信基地として様々な機能を育み「まちの顔」として歴史を刻み込んできました。しかし、近年の郊外型大型店の出現、モーターレーゼーションの進行及び景気の低迷等による人々の生活様式や消費行動の多様化等により、中心市街地の空洞化が今後のまちづくりの大きな問題となっています。また本地区は、名鉄名古屋本線及び三河線の2本の鉄道により地区が分断され、その中でも駅東の踏切では長時間の遮断により、著しい交通混雑が発生していました。

□知立駅周辺は、昭和30年代に土地区画整理事業を施行しているものの、当時の整備では幹線道路の幅員が11mと狭く、今日の自動車事情に対応できない状況となっていました。また、都市基盤が未整備な地域も駅前に残存しており、商業地として有効活用が図りにくい状況となっていました。

□対象地区の外縁に国道1号、国道155号、国道23号及び国道419号が骨格を成していますが、線路や河川等により知立駅周辺部との繋がりが弱いなど、交通環境の悪さ・低さが商業機能向上の大きな阻害要因となっていると考えられます。このような背景のもと、昭和51年より鉄道の高架化の検討が進められてきました。鉄道を高架化することで、当該地区の交通環境が大きく変化することが予想され、同時に対象地区内を円滑に移動できる交通環境の改善を図ることが必要となっていました。更には、鉄道の高架化などの交通環境の改善と併せ、市民ニーズを踏まえた中心市街地の魅力を高めるため、土地利用及び施設構成の質的向上や量的拡大のほか、公共交通の利便性向上など誰もが気軽に訪れることができる交通環境を形成することが必要となっていました。

□このような状況を背景として、昭和63年に「知立連続立体交差事業促進期同盟会」が設置され市民の機運が盛り上がりつつあったことを契機に、平成9年度新規事業採択を得て、平成10年2月に都市計画決定をして、平成12年度事業認可を受け知立駅を中心とした4.3Km、踏切除去数としては10箇所の事業に着手しました。

□交通環境の改善と併せ、中心市街地の魅力向上に向けた一体的な整備を図るため、知立駅周辺土地区画整理事業（平成11年7月に事業認可）施行しており、その一部を平成18～22年度の5年間でまちづくり交付金事業を活用し進めてきました。

□地区内の一般市道については、利便性及び安全性をより高めるため、歩道整備、路面改良、新設道路建設、橋梁の耐震補強及び道路拡幅等地元要望も取り入れて順次進めています。なお路面改良等については、第5次知立市総合計画の施策であります「交通事故のないまちづくり」で幹線市道路面補修事業として位置づけられています。

□地区内の公園については、整備後20年以上経過している公園も多く、安全性の低下が懸念されています。また、古くに整備した公園はユニバーサルデザインに配慮した施設の整備が少なくなっています。

□地区内の子育て環境については、中心部に宝保育園や知立中央保育園が立地しており施設的には充実しているものの、乳児保育（0歳～2歳児）が飽和状態となっているなど、十分な子育て環境が提供できていない状況となっています。

課題

○中心市街地などにおいて、交流・居住・防災など多様な街の機能を充実させるため、今後も、安全・安心で快適なまちづくりを支える基本的な都市基盤の整備を推進する必要がある。

○限られた予算のなかで市民生活における利便性・安全性を向上するため、道路や公園などの既存ストックを有効に活用し、社会のニーズや市民のニーズに対応した機能の改善・充実などの「質」の向上を図る必要がある。

将来ビジョン（中長期）

（総合計画の方向性）

○中心市街地機能の向上・・・知立連続立体交差事業や知立駅周辺土地区画整理事業などの推進により、魅力と賑わいのある中心市街地の再生を図る。

○移動しやすい道路の整備・・・交差点の改良、道路拡幅などにより、市内で発生している渋滞箇所の改善を図るとともに、道路の路面・路肩などの改修を進め、移動がしやすい道路環境をつくる。

○歩行者の安全確保・・・歩道の設置及び改良、学校通学路の見直しも含めた安全確保策の実施により、歩車道の分離を進め、歩行者が安心して歩ける道路へ改善する。

○誰もが活動しやすい公的空間への改善・・・誰もが円滑に利用できるように公共施設や歩道、公園などのバリアフリー化を進め、活動しやすい公的空間を整備する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内の老朽木造建築棟数率	%	対象地区内の建物全棟数のうち、昭和56年以前(旧建築基準法で建築された建物)に建築された木造建物の割合	地区内に密集した木造住宅が多いことから、老朽木造建築棟数率を確認することで、防災機能の向上効果を把握する。	31	H21	25	H27
都市公園のユニバーサルデザイン化率	%	地区内の都市公園のうち、ユニバーサルデザインによる施設を設置している割合	ユニバーサルデザイン化した施設を設置した公園の割合を確認することで、多世代が交流できる施設の快適・安心性向上の効果を把握する。	19	H21	28	H27
交通事故発生件数	件／年	知立市の統計	道路改良等の実施により交通安全性を高め、交通事故発生件数を減少させる。	2,322	H21	2,190	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
■基本的な都市基盤の整備により、まちの活性化を図るため、連続立体交差事業と一体的に進められている知立駅周辺の土地区画整理事業や地区の日常的な市民生活に不可欠となっている主要市道の改良整備を推進する。		■基幹事業 道路／谷田町12号線道路改良事業、牛田町山屋敷2号線道路改良事業 ○関連事業 知立連続立体交差事業(知立駅周辺地区)、知立駅周辺土地区画整理事業(知立駅周辺地区)、道路改良事業(上重原町13号線)、山屋敷町3号線歩道整備事業、市道知立中央通線道路改良事業、区画整理調整池整備事業(知立山土地区画整理事業)
	■既存の施設の質の向上を図るため、走行環境を改善するための道路面の改良や、赤ちゃんからお年寄りまでの誰もが使いやすいようバリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの整備を推進する。	■基幹事業 道路／幹線市道路面緊急改良事業 公園／公園整備事業(草刈公園、新地公園、丁尻公園、新池公園、鳥居公園、茶野ふれあい広場) ○関連事業 幹線市道路面緊急改良事業

その他

まちづくりをする上で、市民が暮らしやすい街を目指すことは、行政の責務であります。平成9年度に事業採択を受け、平成12年度には事業認可を受けました知立連続立体交差事業を基に、中心市街地の活性化を図り、また、交通渋滞の解消等によって人々が集まることで、商業も活性化されたにぎわいのあるまちを目指している最中であります。

これに加え、公共施設の耐震化及び土地区画整理事業を含めた道路整備等により、地震災害に対する安全性や交通の利便性が高まり、さらなるにぎわいが創出されることによって、安全・安心により暮らしとなるまちづくりをいっそう進めるものであります。

また、安全・安心を地震防災以外にも幅広く対応することで、地区住民に、より大きな安全・安心を提供するものです。

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	2,395	交付限度額	958.0	国費率	0.400
---------	-------	-------	-------	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路		谷田町12号線道路改良事業	知立市	直	L=130m	H17	H24	H23	H24	90	25	25		25
		幹線市道路面緊急改良事業	知立市	直	L=102m	H23	H23	H23	H23	2	2	2		2
		牛田町山屋敷2号線道路改良事業	知立市	直	L=480m	H19	H27	H24	H27	200	155	155		155
公園		草刈公園	知立市	直	A=17,667㎡	H26	H26	H26	H26	18	18	18		18
		新地公園	知立市	直	A=15,443㎡	H24	H24	H24	H24	14	14	14		14
		丁皿公園	知立市	直	A=2,492㎡	H27	H27	H27	H27	10	10	10		10
		新池公園	知立市	直	A=2,506㎡	H24	H24	H24	H24	10	10	10		10
		鳥居公園	知立市	直	A=4,043㎡	H27	H27	H27	H27	10	10	10		10
		茶野ふれあい広場	知立市	直	A=2,388㎡	H24	H24	H24	H24	15	15	15		15
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム		—			—									
地域生活基盤施設		—												
高質空間形成施設		—			—									
高次都市施設														
中心拠点誘導施設		—			—									
生活拠点誘導施設														
高齢者交流拠点誘導施設														
既存建造物活用事業(中心拠点誘導施設)														
土地区画整理事業		知立駅周辺地区	知立市	直	13.3ha	H11	H38	H23	H27	3,524	2,136	2,136		2,136
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										3,893	2,395	2,395	0	2,395

95 ...A

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直ノ間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造 支援事業														
事業活用調 査														
まちづくり活 動推進事業		—			—									0
合計		—			—					0	0	0	0	0

合計(A+B)	2.395
---------	-------

[illegible]